

平成 20 年度慢性期入院医療の包括評価に関する調査に係る  
第 2 回分科会での指摘事項について

	第 2 回分科会での指摘事項	対応状況
1	患者特性調査については、地域性を考慮した分析をすべきではないか。	回答済み。 (第 2 回分科会資料「慢－6」)
2	医療区分 1 に該当する患者像について、細分類を検討すべきではないか。	資料「慢－4－1, 慢－4－2」
3	患者特性調査の患者分類の分布等、対象病院全体（全病院）と平成 18 年度調査と共通の病院とで傾向が違うため、施設特性の比較をすべきではないか。	回答済み。 (第 2 回分科会資料「慢－7」)
4	質の評価が平成 20 年度改定で新たに導入されたことを踏まえ、Q I も更なる分析を検討すべきではないか。	提出された評価票を用いて、Q I と共通する項目を分析中。
5	後期高齢者特定入院基本料のいわゆる「除外対象」の患者について、レセプト枚数や請求総額を示して欲しい。	資料「慢－5」
6	一般病床であっても、診療報酬の算定において平均在院日数を考慮しなくてよい病床（特殊疾患病棟入院料算定病棟等）をすべて入れて算定した、一般病棟の平均在院日数を示して欲しい。	回答済み。  一般病床の平均在院日数 19.0 日 (平成 19 年度病院報告より) 注) 病院調査による一般病床の平均在院日数は、診療報酬上の特殊な病棟も全て含んだ平均在院日数が算出されている。